

Title	本研究会の活動（2000年4月～9月）
Author(s)	
Citation	詞林. 30 P.54-P.55
Issue Date	2001-10-20
Text Version	publisher
URL	<a href="http://hdl.handle.net/11094/67476">http://hdl.handle.net/11094/67476</a>
DOI	
rights	
Note	

*Osaka University Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/repo/ouka/all/>

本研究会の活動（2000年4月～9月）

第130回研究発表会 4月15日（日）

朱雀帝の機能

—「源氏物語」賢木巻における—

人麻呂入唐

—「拾遺集」における人麻呂享受—

アン・コモンズ

第131回研究発表会 5月19日（土）

「源氏物語」朱雀院の出家

チョーティイカプラカイ・アッタヤ

「狭衣物語抄」作成の背景

—延宝五年の「狭衣」校合をめぐる—

川崎佐知子

第132回研究発表会 6月16日（土）

「源氏物語」葵巻における「初立ち」考

和田 美香

「大仏の御縁起」の構造

箕浦 尚美

第133回研究発表会 7月21日（土）

「石清水物語」における男主人公の心理と作者の意図

井 真弓

徒然草と仁和寺僧弘融

—「遮要秘抄」・「康秘」奥書から見えること—

米田真理子

第134回研究発表会 9月8日（土）

「源氏物語」の養子と「源氏物語系図」の養子

楠 なおみ

落窪姫君とあこぎについて 付与される仕事・取り除かれる仕事  
鈴木麻里子

伊井 春樹編  
源氏物語 注釈書・享受史事典

平安末期から幕末までに成立した源氏物語の注釈書五二  
五点の詳細な解題と、享受の歴史を年月順に資料を配列し  
た事典。

◇院政期から江戸末期までの写本・版本の注釈書について、  
五十音順の配列により、一点ずつ「書名」「著者」「書誌」

「成立」「内容」「本文」「文献」「資料」の項目に分けて解題。

◇それぞれの注釈書の複製、翻刻、マイクロフィルムの種類  
も示し、関連した研究書や文献についても網羅する。

◇源氏物語が成立した当初から、幕末までどのように享受  
されてきたか、その実態を知るべく、奥書、識語とともに、  
日記や記録類からも資料を採録し、年月順に配列した。

◇巻末には、「書名索引」と「人名索引」を示した。

平成十三年九月刊 菊判八三二ページ  
定価（本体一八〇〇円＋税） 東京堂出版

『前田富祺先生退官記念論集 日本語日本文学の研究』

(同刊行会 平成十三年三月)

現代語訳を通して見た中古助動詞「ぬ」の表現意義

重見 一行

古語辞典の記述・用例について

—「あざむく」・「になひいだす」・「かきかぞふ」・「あたたけし」を例として—

堤 和博

寛仁二年頼通大饗屏風詩歌の整理

—古筆切の再検討を中心に—

田島 智子

藤原清輔の「ながひこ」詠をめぐって

佐藤 明浩

保昌と袴垂の話について

—相手を見抜く武者—

大村誠一郎

「をこ」系の語彙について(その一)

—「をこ」と「をこなり」—

大谷伊都子

中世後期の時を表す語彙(二)

—「太平記」の「昨日」「明日」をめぐって—

玉村 禎郎

貞門俳論書の成り立ち—「毛吹草」の場合—

高橋 雅彦

平賀源内と「名物六帖」

福田 安典

「芝翫節用百戲通」注釈(二)

萩田 清

竹枝詞の背景

新稲 法子

近世料理書における「さる」の意味領域

余田 弘実

チラカルの成立

橋本 行洋

書簡文研究資料としての「女子書翰文」

国分一太郎の従軍体験に基づく作品群

—アメリカの森鷗外

小椋 秀樹

—英訳「阿部一族」の本文解釈について—

前田 均

集団語に見る言い換え

前田 淳

ジェンダー表現の日韓対照考察

米川 明彦

身体語彙・身体語彙慣用句考

鄭 秀賢

日本語コーパスの作成に関する基本的構想

林 八龍

台湾における大学作成の日本語教材について

李 漢燮

動詞の一過性含意によるノ・コトの使い分けについて

王 敏東

推量形式と条件節

戴 宝玉

引用論から見た「伝達のムード」の位置づけ

森山 卓郎

自動と他動、あるいは所動と能動

藤田 保幸

大鹿 薫久

◇実費頒布。残部僅少。問い合わせは左記まで。

〒五二〇一〇八六一

大津市平津二一五一

滋賀大学教育学部内・藤田保幸研究室

Tel. 〇七七—五三七—七七九八